

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 泉州地域の方々に本校があつて良かったと心から言っていたいただけるような「地域の星」となる人材を輩出していく。「地域の星」とは学力のみならず、人間力（公共心、道徳心）、コミュニケーション力、活動力がバランスの取れた人材のことをいう。
- 設立当初に制定された校訓「真摯、闊達、友愛」と、東日本大震災を機に定められた久米田三則「挨拶、礼節、親切」を目標とし、人間性溢れる人材を育てていく。
- 「地域の星となる人材」とは、教員、医療関係従事者（看護師、臨床検査技師等）、公務員（役所、警察官、消防士等）、弁護士、会計士、地元産業等、泉州地域に親しみ明日の泉州を担う人材のことである。
1. 公立高校として、知・徳・体のバランスを大切にし、将来、地域の核となる人材を育成する。
 2. 経済的・家庭的に様々な生徒に対応できる公立高校組織を自覚する。
 3. 「共生推進教室」が設置されている意義を大切にす。
 4. 地域の核となる高校として、外部から評価される実績を挙げていく。

2 中期的目標

※ 「学校改革DNAの伝承と発展」

「地域に光る公立高校」という明確なコンセプトをさし示し、「学力、コミュニケーション、活動力」の3つを伸ばす。また、「文武両道」を提唱し「学力、部活動、学校行事」の3つを充実させるという方針は、多くの教職員の共感を得て、実践し、発展してきた。ここ数年は、旧4地区の中でも有数の人気校となり、学校説明会においても学校見学会においても多くの中学生希望者見学を受け入れられるようになった。これらは、H17年度に定員割れを起こした反省に基づき、制服変更、コース制実施、レインボープラン（自習室開放、学習クラブ、学習合宿、土曜講座、学力学習習慣診断テスト、夢設計手帳、オーストラリア語学研修）実施など、多様な取組みを実施してきたことによる。毎年、教員定員の4分の1の約15名が人事異動で入れ替わる中で、これらのコンセプトを伝承し発展させていくことが重要である。

1. 学力の育成と授業力の伸長を発展させる。－生徒授業評価から教員相互による授業力向上支援へと発展させる－
 - (1) 生徒の変化に応じた授業を構築し授業満足度を増大させる。生徒の学習姿勢の変化に応じ「わかりやすく楽しい授業」から「難しいが進路実現に役立つ授業」を評価指標とする。
 - (2) 生徒と保護者の希望の双方を満足させることのできる授業をめざすとともに教員の授業力の向上を図る。
 - ※ 学校教育自己診断による「授業内容は難しいが、進路実現に役立つ」を平成28年度には70%以上（H27度73%）
 - ※ 学校教育自己診断による「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」を平成28年度には80%以上（H27度89%）
 - (3) 教員相互の努力により授業力を伸長させる・ペアリーディング、3分間スピーチ、小テストなど「考えさせる授業」を授業内容の中で増やしていく。
 - (4) 「地域に光る公立高校」というコンセプトに基づき、本校の「教育方針や教育内容」を地域・保護者の人たちに広く発信する。
2. 安全で安心な学校づくりを発展させる。－生徒自らが規律の大切さを理解し、社会的規範を大切にする生徒を育てる－
 - (1) 生徒指導、教育相談等を組織的に展開し、基本的には全員卒業をめざす。
 - ・年間特別指導件数を10件未満とする。
 - ・平成22年度より実施している組織的登校指導を継続する。
 - ・時間を守る規律指導を徹底し、生徒一人当たりの年間遅刻件数4件以内を目標とする。
 - (2) 在籍定員960名に対して、常時、950名以上の在籍者がるように努力する。（H27末在籍者956人、共生推進コース9人）
 - (3) 学校生活を充実させ、豊かな人間性を育む。
 - ・ライフサポート室や「高校生活支援カード」を効果的に運用していく。
 - ・クラブ入部率を増大させる。
 - ・生徒会活動を活性化させるとともに参画を支援する。
 - (4) より安全で快適な教育環境を実現するため、学校施設・設備の整備と改善を図る。自転車事故等予防のため計画的で継続的な指導を行う。
3. 目的意識を明確に持った進路指導ができるようにする。－自ら考え、自らの意志で将来を考える生徒を育てる－
 - (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有機的に展開し、「キャリア教育」、「人権教育」、「志学」を総合的に行う。
 - ・平成25年度から導入した「生徒用スケジュール手帳（夢設計）」を積極的に活用する。
 - (2) 自ら主体的に調査活動を行い、周りの人の前で自分の将来目標をはっきり語れる生徒を育成する。
 - (3) 情報化・高齢化・国際化に対応し、主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
 - ・ICT機器を活用した授業を実践し、情報化社会に対応した適応力を身につけさせる。
 - ・海外修学旅行や海外語学研修を通じて、国際化社会に適用する人材を育成する。
 - (4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。（H24度：全員就職、H25度：全員就職、H26度：全員就職、H27度：全員就職）
 - (5) 平成28年度には、国公立大学・難関私立大学10人以上、中堅私立大学60人以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・「学力の育成と授業力の伸長」を課題として取り組んできた。「授業がわかりやすく、楽しい」が 62%、「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」が 72%となっている。「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」は 87%となった。昨年度より実施している「公開研究授業大会」の効果があると考えられる。</p> <p>「生徒に応じて授業レベルやスピードを細かく調整してくれる授業」を望む生徒が 38%と一番多いが、「知識にこだわらず人間性や社会性を養ってくれる授業」「進路実現のための学力を高めてくれる授業」を望む生徒が、相当数（それぞれ 29 %、30 %）いる。学年が上がるにつれて、学習への意識が高まり、「進路実現のための学力を高めてくれる授業」を望む生徒が増加（1 年 21%、2 年 34%、3 年 37%）していく。生徒の要望は多岐にわたっており、更に授業を工夫しなければならない。</p> <p>家庭での学習時間がきわめて少ない生徒は、徐々に減ってきている。（H25 年 38%、H26 年 34%、H27 年 31%、H28 年 26%）これについても継続的に取り組み、更なる改善が必要である。</p> <p>・「安全で安心な学校づくり」は、81 %の生徒が「学校に行くのが楽しい」93 %の生徒が「行事が楽しい」と回答しており、学校全体での創意工夫の結果と考える。「気軽に相談できる先生がいる」は 63%と目標を達成しているが、さらに高まるよう継続的に取り組んでいきたい。</p> <p>・「目的意識を明確に持った進路指導」は、進路 LHR や総合的な学習の時間でのキャリア教育で様々な取り組みを行った結果、「将来の進路や行き方について情報を得たり考えたりする機会がある」が 86%となった。</p> <p>・保護者のアンケートでは、「子供は、学校に行くのを楽しみにしている」が 84%、「学校の生徒指導の方針に共感できる」76%、「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えようと努力している」が 90%となっており、学校の指導方針に理解が得られていると考える。今後も情報発信をさらに進め、保護者との連携を高めていきたい。</p> <p>・教職員のアンケート「授業内容を他教科と話し合う」の評価が低いが、研修を年 8 回実施し、教科を越えて校内問題を共通理解するよう努めている。また、来年度も研修の中で「公開研究授業大会」に取り組み、個々の先生方の取り組みが、学校全体の取り組みに広がるように継続的に取り組んでいきたい。</p>	<p>第 1 回 (H28. 6. 10)</p> <p>○平成 27 年度 学校経営報告について ①進学実績の伸びが多方面から評価されている。それは様々な取り組みによる相乗効果であると思われる。今後はこれらの取り組みをより精選していく必要がある。昨年度の目標の 1 つであった、近大合格 100 名は達成できた。部活動を頑張っていた生徒の中から上位校合格の生徒が出ている。次はさらに上位校への進学実績を増やしたいが、まだ近大に行けない生徒もいるので、その実数を増やすことが第一目標である。②昨年度の入学者選抜は、一本化によって私学より遅くなったため、倍率は高かったが私学に流れている。</p> <p>○平成 28 年度 学校経営計画について 国公立大の数値目標が変化した。校長が代わったのを機に、3 年計画ぐらいで何か新しい目標や取り組みを考えてはどうか。</p> <p>○現状と課題 近年の久米田高校の学力向上は、生徒たちの生活習慣の向上が関係しているのではないかと。今年の 1 年生は遅刻が少ない。これが他の面でも良い結果につながるのか見守っていききたい。校内がきれいになってきた。それにつれて学校全体としても良くなってきたと感じる。これからも教職員間のチームワークを密接なものにし、一人ひとりの生徒を大切にしていきたい。</p> <p>第 2 回 (H28. 10. 14)</p> <p>○平成 28 年度の取り組みと進捗状況について (報告) ①生徒状況について 遅刻者は減少している。目標は、遅刻指導の回数を 1 人の生徒につき年 2 回までにおさめること。今の調子であれば達成できるのではないかと。②進路指導、総合的な学習の時間(夢設計)について 進学率：4 年制大…50%、医療看護系…25%、短大…10% 夢設計：仕事調べや自己 PR などの取り組みを行っている。③平成 28 年度オーストラリア語学研修について 英語教員 2 名の付き添い。台風のため 1 日延期になった。定員：飛行機の都合で 20 人 (内 2 人欠席)。応募：30 人。→人気が高まっている。</p> <p>④平成 28 年度 NPO 公開講座 (公務員編) について 生徒 22 名・保護者 11 名・NPO 職員 10 名の参加があった。仕事内容や、給料、休暇について直接先輩に話を聞くことができることが好評である。次回は教員編で、29 名参加予定である。</p> <p>第 3 回 (H29. 1. 20)</p> <p>○平成 28 年度 学校評価基礎資料について (報告)</p> <p>①クラブ加入率について ・数年前より加入率増 (運動部が多い) ・生徒のアンケートを見るとクラブを頑張っていると答えた生徒が多かった。</p> <p>②職員研修について ・研修の内容は各分掌等で決めており、内容は多岐にわたっている・研修のアンケートは点数制にしている＝満足度が分かりやすい・教員の満足度は総じて高く、感想はすぐにフィードバックされている。</p> <p>③④進路について ・関大・近大、産近甲龍への進学増・センター出願 117 名、内 97 名受験、内国立大志望は 2 割程度・センター出願数は岸和田高校、和泉高校に次ぐ数となっている。</p> <p>⑤久米田アンケート ・保護者からの回答数がとても多い。学校に興味をもってもらっている証拠・学校へ行くのが楽しいと回答する生徒が多い・学年が上がると、「楽しい」よりも「進路実現」思考の生徒が多くなる・共生生徒との関わりが多いと感じる生徒が少ない→各学年 3 人なので同じクラスにならなかった子は関わりが少ないと感じるのではないかと・将来について情報を得たり考えたりする機会があると感じている生徒が多い・家庭で進路について話し合っていると回答した保護者が多い→教育活動に協力的な家庭が多い。</p> <p>○平成 28 年度 学校評価 (案) について</p> <p>(校長) 学校評価欄の○△をどのようにしてワンランクアップさせるかが課題、アンケートで好回答は多いものの、数値目標が高いため自己評価欄は◎ではなく○が多い。夏の学校説明会、クラブ体験の参加者は多い。</p> <p>(赤木) アクティブ・ラーニングを重視していくべき、正解を言わずに考えさせる力が必要、国語力 (読む力、文章をつくる力) を伸ばすことが重要</p> <p>(今井) 久米田の英語力は高い</p> <p>○平成 29 年度 学校経営計画 (案) について</p> <p>(校長) 受験層は、高石以北の生徒も集めて倍率を上げていく。生徒指導面の強化＝若手教員の育成</p> <p>(赤木) 国語力と英語力は比例する、語彙数を増やす、教科を越えた学習を進めるべき</p> <p>(今井) センター試験に代わる新テストを意識したテスト内容にしていく。英語＝書く力、話す力</p> <p>(安藤) 2020 年から始まる新テストでは文章の組み立て方が評価される。</p> <p>(校長) ありがとうございます。教員が 1 つの目標に向かって努力できるように意思統一をしていきたいと思っております。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の育成と授業力の伸長	<p>(1) 生徒の変化に応じた授業を構築し、授業満足度を増大させる。</p> <p>(2) 生徒と保護者の希望の双方を満足させることのできる授業をめざすとともに教員の授業力の向上を図る。</p> <p>(3) 教員相互の努力により授業力を伸長させる。</p> <p>(4) 「地域に光る公立高校」というコンセプトに基づき、本校の「教育方針や教育内容」を地域・保護者の人たちに広く発信する。</p>	<p>【わかる授業、更に改善された授業】</p> <p>(1) 7月の授業アンケートに基づき改善の方向性を出し、授業改善、12月の授業アンケートで是正状況を点検する。学校教育自己診断では、授業満足度の経年変化を見る。</p> <p>(2) H26年度「学校経営推進」認定校に選出されICT機材を展開教室に整備した。H27年度は、ICT機材をタブレット端末とリンクさせ、生徒の声が簡便に表現できるシステム構築に努める。 授業相互研究を伸張させるため6月23日に公開研究授業を実施する。</p> <p>(3) 教育力の維持のための教員研修を充実させる。学校基本問題研修を年2回実施する。</p> <p>(4) 新入試制度の変更に伴い、地域・保護者の人たちに学校教育内容等を紹介する冊子を作製し配布する。 新入試制度用コンピュータソフトを更新する。</p>	<p>(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」70%以上の維持。(H27年度：73%)</p> <p>(2) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」を70%以上(H27年度：89%)</p> <p>(3) 研修を年7回以上実施。教員アンケート評価80点以上だったか。(H27年度：平均86点)</p> <p>(4) 学校内パンフレットの印刷部数1万部を作成できたか。 新入試処理用ソフトを作成できたか。</p>	<p>(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」72.3%で達成(○)</p> <p>(2) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」86.7%で達成(○)</p> <p>(3) 1月までに教員研修を8回実施、アンケート平均86.1点で達成(◎)</p> <p>(3) 学校内パンフレットを新たに1万部作成し、高石市以南の中学校に配布した。(◎) ソフトは、作成中である。</p>
2 安全で安心な学校作り	<p>(1) 生徒指導、教育相談等を組織的に展開し、基本的には全員卒業をめざす。</p> <p>(2) 在籍定員960名に対して、常時、950名以上の在籍者があるように努力する。</p> <p>(3) 学校生活を充実させ、豊かな人間性を育む。</p> <p>(4) より安全で快適な教育環境を実現するため、学校施設・設備の整備と改善を図る。</p>	<p>【充実した快適で楽しい学校生活】</p> <p>(1) 特別指導件数10件未満を目標とし、皆が気持ちよく規律を守れる学校作りを行う。教育相談等を通じて生徒・保護者の状況を的確に把握し、皆が進級・卒業できる学校作りを実施する。「遅刻指導」「ベル着指導」を合理的に合わせ、遅刻件数の低減を実現する。清掃と美化にも取り組み気持ちよく学校生活を送れるように努める。</p> <p>(2) 「久米田カード」を活用し、当校への志願者数の増大を図るとともに、快適で充実した学校生活を実現し中途退学者が出ないように努める。</p> <p>(3) 新入生の入部について、「部活動勧誘冊子」に改善を加え、4月～5月の一学年の呼びかけで、入部者を拡大する。 前年度設置した、「ライフサポート室」を効果的に運用するとともに、本校で充実化した「高校生活支援カード」を適正に運用し、「クラス開き」へとつなげていく。</p> <p>(4) 温水シャワートイレは各階に整備完了。校舎を安全で美しく保つために、廊下、階段及びトイレの整備及び清掃方法を検討する。</p>	<p>(1) ア 特別指導件数10件未満(H27年度：5件6人) イ 生徒一人当たり平均遅刻件数を4件未満となるよう努める。(H27年度末：2.0%)</p> <p>(2) 960名定員中、950名以上の在籍を維持。(H27年度：954人)</p> <p>(3) 4月当初に1年生体験入部を実施し、クラブ体験実施後の入部率60%以上をめざす。(H27年度：70%) 「高校生活支援カード」を適切に運用し、入学生の把握に役立つことができたか。「ライフサポート室」を機能的に運用することができたか。「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる。」を60%以上めざす。(H27年度：63%)</p> <p>(4) 廊下、階及びトイレの更なる整備及び、安全でより美しい校舎を実現する。「学校の施設・設備は、ほぼ満足できる。」を60%以上めざす。(H27年度：76%)</p>	<p>(1) ア 特別指導件数8件10名(○) イ 平成28年度末現在、生徒一人あたりの遅刻件数2件であり、一人あたり4件未満を達成できた。(◎) H27(12月末)1,665件 H28(12月末)1,355件</p> <p>(2) 共生生徒あわせて969名定員の所965名(960名定員の所956名)の在籍(◎)</p> <p>(3) 部活動入部率は67%で達成(○) 「高校生活支援カード」で生徒の情報を把握し、「ライフサポート室」を機能的に活用することができた。 「担任の先生以外に気軽に相談できる先生がいる」64.8%で達成(◎)</p> <p>(4) 「学校の施設・設備は、ほぼ満足できる」は61.5%で達成(○)</p>

府立久米田高等学校

<p>3 目的意識を明確に持った進路指導。</p>	<p>(1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有機的に展開し、「キャリア教育」、「人権教育」、「志学」を総合的に行う。</p> <p>(2) 自ら主体的に調査活動を行い、周りの人の前で自分の将来目標をはっきり語れる生徒を育成する。</p> <p>(3) 情報化・高齢化・国際化に対応し、主体的に生きていくことの出来る力を育成する。</p> <p>(4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。</p> <p>(5) 平成 28 年度には、国公立大学・難関私立大学 10 人以上、中堅私立大学 60 人以上をめざす。</p>	<p>【自分の将来を見つけ、実現への道筋発見】</p> <p>(1) H25 に導入した「スケジュール手帳」は継続。1 年秋の自分の将来を語る 1 分間スピーチ、1 年冬のグループ毎の調べもの学習に続く、2 年の学習内容を研究する。</p> <p>(2) NPO 法人久米田フレンドシップによる進路説明会は継続。「学力生活実態調査」に引き続き「基礎学力調査」「教育産業による学力分析システム」を導入し有効利用する。</p> <p>(3) グアム(アメリカ合衆国)への海外修学旅行を実施する。 オーストラリア海外語学研修を実施する。</p> <p>(4) 社会の構成員としての知識・経験を身につけさせ、「共生推進教室 5 期生(3 年生)」の全員の就職をめざす。</p> <p>(5) 進路結果が、生徒の目標を達成できるように努力する。</p>	<p>(1) 総学 LHR 志学委員会の研究結果 H25 より「スケジュール手帳」の継続使用。1 年の発表大会を継続し、2 年で総学の有意義な活用が行われたか。発表大会良かった 70%以上めざす。</p> <p>(2) NPO 主催の進路説明会を継続できたか。「基礎学力調査」「教育産業による学力分析システム」を導入し有効利用することが出来たか。将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある 80%以上めざす。</p> <p>(3) 修学旅行は 38 期生参加者の満足度 85%をめざす。(H27 年度: 94%) 海外語学研修は 20 名以上の参加をめざす。(H27 年度: 24 名)</p> <p>(4) 「共生推進教室 5 期生の全員進路希望」の実現。(H27 年度: 全員就職)</p> <p>(5) 国公立大学・難関私立大学で 10 人以上、中堅私立大学 60 人以上、看護専門学校 10 人以上、公務員等 10 人以上めざす。(H27 年度: 難関私立大 34 名、中堅私立大 110 名、看護専門学校 26 名、公務員 19 名)</p>	<p>(1) 「スケジュール手帳」は H28 年度も継続使用、1 年発表大会は、1 月 26 日に実施。3 年間の「総学 LHR 志学」全般について、3 年生からアンケートを実施することができなかった。(○)</p> <p>(2) NPO 主催の進路説明会を継続することができた。(◎) 「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」85.7%を超えた。(◎)</p> <p>(3) 「遠足・文化祭・体育祭・修学旅行等は、楽しく行えるよう工夫されている。」は 93.5% (◎) 語学研修参加者は、18 名の参加者であった。(○) 申し込みは 30 名あった。</p> <p>(4) 5 期生全員の就職内定 (○)</p> <p>(5) 2 月末現在 <table border="0"> <tr><td>国公立大学</td><td>2 名</td></tr> <tr><td>難関私立大学</td><td>27 名</td></tr> <tr><td>中堅私立大学</td><td>74 名</td></tr> <tr><td>看護専門学校</td><td>25 名</td></tr> <tr><td>公務員</td><td>7 名</td></tr> </table> (◎)</p>	国公立大学	2 名	難関私立大学	27 名	中堅私立大学	74 名	看護専門学校	25 名	公務員	7 名
国公立大学	2 名													
難関私立大学	27 名													
中堅私立大学	74 名													
看護専門学校	25 名													
公務員	7 名													